



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2008.10

No. 294

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# マイフィールドと出会った鳥たち

鈴木紀雄（さいたま市）

「あなたのフィールド案内を」とのお話をいただきました。そこで、すでに紹介されている所もありますが、私のよく行く所とそこで出会った印象深い鳥たちについて書くことにしました。身近なところにも「珍鳥」が来ることもあり、捨てたものじゃない、と提供いただけたうれしく思います。

## A 岩槻文化公園（春夏秋冬）

岩槻在住なので一番よく通う所。広場、林、アシ原、水面等がコンパクトにあり、近年はカモ類が寂しいものの、渡りと越冬の鳥を楽しめる。

アシ原には毎冬、ベニマシコやアリスイが来るし、キツタの実にヒレンジャクがたかり、体育館横の村国池の奥に広がるじくじくした林床にヤマシギが入る年もある。ウソが各地に訪れた 06~07 年冬、文化公園にも 15 羽ほどが来て、口笛でまねると上空を飛び交い、「どこに仲間がいるのか」と探

し回っていたが、そのうち見抜かれてしまった。この冬はカヤクグリも複数越冬、06 年 11 月 26 日にはオオマシコの小群も姿を見せてくれ、びっくりした。

長年あこがれていたミゾゴイに出会えたのも文化公園だった。06 年 10 月 25 日、たまたま同行した Y さんと南端のクヌギ林をのぞき込んで「キビタキでも居ないか」と探していたら、頭上の枝で動く大きな鳥影。「ゴイサギ？」と見上げたらミゾゴイ！心臓をバクバクさせながらじっくり特徴を観察した。この時はさらに 2 羽出現、みな若鳥だった。同じ巣で育った兄弟(?)が、

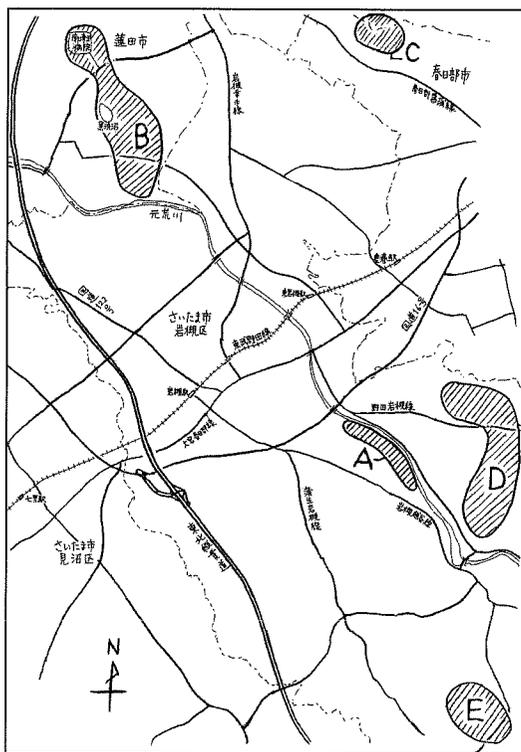
ともに南へ向けて困難な旅をしているところに出会ったと想像している。

04 年 12 月 8 日、林の中から「ヒツヒツクル」とヒタキ科の音がする。キビタキとしては時期が遅いし、もしやと思ったら、やはりオジロビタキだった。幹に飛びついては地面に降りたり、独特の行動を披露してくれたりした。越冬するかと思ったが 12 月 25 日が終認となった。

文化公園では、残念なことに時折、ブッシュの中などでカスミ網やメジロ籠を発見することがある。そんなときは躊躇することなく警察に通報している。

## B 蓮田市黒浜周辺（春夏秋冬）

黒浜沼を中心に、周辺のアシ原や北方の東埼玉病院周辺、南側の水田地帯などがポイント。アシ原には毎冬、ベニマシコ、アリスイ、クイナがやって来る。



10年近く前の真冬の朝、倒れた草の下をまるでネズミのようにもぐって歩く小さな鳥を間近に発見。あわてて双眼鏡で見ると近すぎてピントが合わず、逆光の中、すぐに見失ってしまった。シマクイナを確認する絶好の機会を逃がしたのだと今も悔しい。

水田地帯では時折、休耕田にタマシギが入る。1回だけだが、畔で採餌するウズラにもあった。東埼玉病院周辺の林ではハイタカがほぼ毎年越冬。ヤマシギ、アオバトが来ることもある。カシラダカの群と思っていたら、ミヤマホオジロが混じっていて大感動したのもここ。

03年3月3日、この冬はマヒワが少なく、前年の晩秋に1回、小群を見ただけだったのが、ようやく針葉樹にたかる30羽程の群を見つけた。その中に赤いのが1羽。ベニヒワ乎！感動のあまり手が震え、声がうわずってしまった。

独立行政法人化でこの土地が切り売りされないことを祈っている。

### C 春日部市内牧

その一角、狭いけれど林と荒地の広がるとっておきの場所だったが、民有地でもあり、すでに一部が宅地化されて久しい。オオタカが巣を作りかけたアカマツは枯れ果て、2年連続でフクロウに会った林の奥もすっかり開けてしまった。

03年3月18日、荒地で変なツグミを発見。頭部は普通のツグミに見えるが、上面、翼、尾とも全体的に灰褐色でレンガ色が見えない。しかも翼の下、脇部が赤っぽい。初めはハチジョウツグミを疑ったが胸には黒い縦斑。「シーッ」と鳴いた時点でワ



写真1 ワキアカツグミ (十王館 守)

キアカツグミだと確信。先輩バーダーに来てもらって確認、撮影(写真1)して頂いた。こんな身近に、こんな「ド珍鳥」が来るのかと心底驚くとともに、日々の「精進」がいかに大切かを実感した。

### D 岩槻区長宮・増長・大口・大谷・大戸岡辺 (春(夏)秋冬)

県道をはさんで水田地帯が広がる。南側にはアシ原も。ここでは01年6月4日にアカガシラサギ(写真2)を見つけた他は、「珍鳥」には出会ってはいない。ヨシゴイやコヨシキリがいることもあるし、夏夕刻のツバメの大群の罅入りが見事。



写真2 アカガシラサギ(長谷川 厚志)

### E 岩槻区野孫周辺

ケリが居ることもあるが、そっと見てすぐに退散している。ジシギ類が入る休耕田もある。

#### その他

春日部市倉常の休耕田では、秋にシギ・チドリ類が入る。昨年は、アカアシシギやオグロシギも。冬には菖蒲町小林周辺にミヤマガラスの群と、それに混じっているコクマルガラス、およびニューナイスズメの群を探しに出かける。

このように書くと「珍鳥」目当ての風来坊みたいだが、時にはA、Bの地域で簡易的なラインセンサス法の記録を試みている。例えば、秋口にヒヨドリがパタッと居なくなることが分かって、秋の繁殖群と越冬群の入れ替わりの狭間ではないかと推測してみたりして、普通種でも楽しんでる。

でも、やっぱりマイフィールドでの「珍鳥」との出会いって最高である。

# 2008年冬 カワウの生息数調査報告

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

2008年1月12日～14日、カモ科調査と同時に実施されたカワウの昼の生息数調査（餌場周辺の個体数）を報告する。

2007/2008年冬から狩猟鳥化され、有害

鳥獣捕獲が実施された（2008年5月、秩父市荒川）。入間川や荒川の上流部への進出など、生息地（埴）の分散が顕著になりつつある。（文責 小荷田行男）

調査地	調査範囲	地域	2004	2005	2006	2007	2008
入間川	豊水橋～新富士見橋	狭山市	2	2	5	3	1
	初雁橋～雁見橋	川越市	5	-	-	-	-
荒川	荒川鉄橋～戸田橋	戸田市 川口市	3	300	165	6	11
	道満(荒川第一調整池)	戸田市・さいたま市	136	503	193	79	176
	秋ヶ瀬橋～羽根倉橋	さいたま市	3	5	0	0	0
	南畑排水機場びん沼川	さいたま市・富士見市	9	6	0	29	11
	荒川大橋～明戸堰	熊谷市	-	6	4	-	-
	玉淀ダム	寄居町	2	0	0	7	9
そうか公園	池全部	草加市	6	0	1	-	-
古利根川	寿橋～堂面橋	越谷市・松伏町	2	5	3	1	3
	藤塚橋～古利根橋	越谷市・春日部市	-	0	5	-	3
利根川	坂東大橋下流	本庄市	-	8	46	6	0
渡良瀬遊水地	貯水池	北川辺町	307	992	459	883	424
狭山湖	湖全部	所沢市	-	68	3	8	17
小畔川調整池	池全部	川越市	1	0	0	0	12
新河岸川	川崎橋～寺尾調整池	川越市	3	1	7	2	4
大宮第三公園	池全部	さいたま市	-	-	-	5	1
大吉調整池	池全部	越谷市	-	-	-	6	5
百穴湖	池全部	吉見町	7	5	3	16	3
武蔵丘陵森林公園	公園内の池全部	滑川町	136	191	19	112	304
大沼公園	大沼	熊谷市	0	0	0	0	0
川越水上公園	池全部	川越市	-	2	15	8	6
八丁湖	池全部	吉見町	4	-	0	0	0
県立農林公園	芳沼	深谷市	0	0	0	0	0
昭和沼	久喜菖蒲公園	久喜市	42	24	63	41	-
さきたま古墳	古墳の池全部	行田市	2	0	0	0	0
白幡沼	沼全部	さいたま市	0	0	0	0	0
見沼自然公園池	池全部	さいたま市	3	0	1	3	2
柳瀬川	富士見橋～栄橋	富士見市・志木市	1	1	1	1	0
黒浜沼	上沼	蓮田市	0	8	4	-	0
元荒川	城北大橋～水管橋	さいたま市	2	0	1	2	6
赤堀遊水池	池全部	桶川市	20	22	18	15	-
緑の丘公園	池全部	松伏町	-	-	0	0	6
宝蔵寺沼	池全部	羽生市	-	-	1	10	3
越辺川	八幡団地前	川島町	-	-	8	6	8
芝川	山口橋～八丁橋	さいたま市	-	-	-	-	5
加田屋川	七里公園～加田屋橋	さいたま市	-	-	-	-	0
見沼代用水東縁	七里公園～山口橋	さいたま市	-	-	-	-	0
見沼代用水西縁	浦和西高～附島橋	さいたま市	-	-	-	-	0
合計			696	2,149	1,025	1,249	1,020

# 野鳥記録委員会の最新情報

## 日本野鳥の会埼玉県支部記録委員会

### ●アメリカムナグロ

英名 American Golden Plover

学名 *Pluvialis dominica*

分類 チドリ目チドリ科ムナグロ属

2007年10月15日に発行された『フィールドガイド日本の野鳥増補改訂版(財団法人日本野鳥の会発行)』320ページにアメリカムナグロが掲載され、その説明文には埼玉県内で観察例があると記述されていると、榎本秀和委員から指摘がありました。小林みどり委員長との打ち合わせにより海老原美夫委員が同書執筆者のひとり安西英明氏に問い合わせ、その記述の根拠は山階鳥類研究所鳥類学雑誌第32巻1号No. 103(2000年発行)、34~36ページの論文「渡辺朝一：アメリカムナグロ *Pluvialis dominica* の本州への初渡来記録」であることを確かめました。石井智委員が渡辺氏本人から、海老原委員が山階鳥研から論文をそれぞれ取り寄せ、4委員がその内容を精査しました。

論文には1987年4月4日埼玉県さいたま市桜区「大久保農耕地の通称B区と呼ばれる水田地帯の一角」で撮影された写真が添付され、アメリカムナグロであると判断する観察内容が詳細に記述されています。さらに、スウェーデン在住で、識別の論文によく引用されるA Field Guide to the Rare Birds of Britain and Europeの第一著者であるPer Alström氏に写真を送り、アメリカムナグロの前年生まれの個体であるとの回答を得たこともあります。同定に疑問を差し挟む余地はないようです。

日本鳥学会発行『日本鳥類目録改訂第6版2000』でアメリカムナグロは、289~290ページ「検討中の種・亜種」のリスト中に、「理由カテゴリー3(同定に疑問がある)、5(論文として公表されていない、または公表されたが最終原稿にまにあわなかった)」として掲載されています。

渡辺論文の同定に問題はないと思われるので、それぞれの発行時期からみて、「公表されたが最終原稿にまにあわなかった」ものに該

当すると考えられます。

当委員会作成の埼玉県内鳥類リストは『日本鳥類目録改訂第6版2000』を基本としていますが、本種の場合は時期的に間に合わなかったため掲載されていないが同定に問題はないので、県内リストに追加すべきであると、委員会として判断しました。県内323種目として記録します。

かつてアメリカムナグロは *Pluvialis dominica dominica*、ムナグロは *Pluvialis dominica fulva* として、別亜種の扱いでしたが、その後アメリカムナグロを *Pluvialis dominica*、ムナグロを *Pluvialis fulva* として、別種とする学説が発表され、日本鳥学会も改訂第6版の準備段階からその説を採用しています。

ムナグロはシベリア極北部からアラスカ西部で繁殖し、インド、東南アジア、オーストラリア、太平洋上の島などで越冬し、渡りの途中、日本に立ち寄ります。アメリカムナグロはアラスカからカナダ北部で繁殖し、南米大陸で越冬します。日本では、茨城県、沖縄県でも記録があります。

羽色や齢に関わらない識別点として、尾の先端と初列風切の先端がほとんど同じ長さであるムナグロに対し、アメリカムナグロは初列風切先端が尾の先端を越えていること、比較的ほっそりした体型のムナグロに対し、アメリカムナグロは頭が大きくがっしり見えること、繁殖羽では、アメリカムナグロの腹部の黒色は翼の根元まで広がっているなどの識別点が図鑑類に紹介されています。渡辺論文に添付された写真は、文一総合出版『日本の鳥550水辺の鳥』190ページに左右反転して掲載されています。

### ●訂正

本誌2008年1月号5ページ、ハジロミズナギドリの記事中、「県内初の記録(320種目)」は、「(321種目)」、同2月号4ページ、オオチドリの記事中「県内初の記録(321種目)」は、「(322種目)」の誤りでした。



## 野鳥情報

**蓮田市黒浜周辺** ◇6月16日、水田にチュウサギ29羽、コサギ2羽、ダイサギ1羽。以前はチュウサギが少なかったが、今はチュウサギが目立ち、コサギが少ない。車を運転中、上空をツミが飛んだ。8月22日、上沼の東上空でサシバがカラスたちにモビングされ、ツバメに混じってショウドウツバメが1羽飛び、コムクドリ10数羽の群れが電線に（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区野孫** ◇6月21日、ケリ3羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区太田1丁目** ◇7月19日午前1時30分、どこからともなく「ホッポー、ホッポー」とアオバズクの声。場所を特定できず（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区加倉5丁目** ◇8月3日、自宅近くでチョウゲンボウの声、外に出てみたら、ゴルフ練習場の鉄骨の上で鳴いていた。◇9月4日、自宅脇の水路の上をカワセミが鳴きながら通過していった（藤原寛治）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇8月9日、芝生の広場の植込みに隠れるようにコジュケイ2羽。また、ここでは、初めてクマゼミの鳴声を聞く（藤原寛治）。◇8月21日、久し振りに鳥見。ヒヨドリがぐっと減った。シジュウカラ、メジロ、コゲラも見つからない。コムクドリ約20羽が飛んでいる。ツツドリと思われるカッコウ科の鳥も出た（鈴木紀雄）。

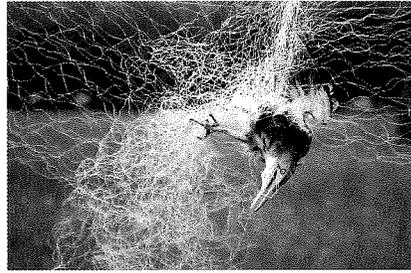
**さいたま市桜区荒川** ◇7月27日、秋ヶ瀬取水堰でササゴイ6羽。左岸魚道に1～2羽



降りて、争いながら魚採り（蟹瀬武男）。

**さいたま市桜区大久保農耕地** ◇8月5日、

防鳥ネットにヨシゴイ幼鳥1羽。羽、指、



首などを痛めないように慎重に取りはずすのに数10分かかった。手の中におさめると、小さく、細く、軽い。人をつつこうとしますが、声をかけるとおとなしくなった。あぜに置いたら、自分で歩いてアシ原に入ってしまった。その後たびたび見回るが、ネットに鳥がかかった形跡はない。（海老原美夫）。

◇8月31日、A区で稲刈りがすんだ水田にタカブシギ1羽、ムナグロ30羽+。チュウサギ30羽+が稲刈り機のを追うように



してドジョウを食べていた（寺添捨男）。

**さいたま市緑区芝川** ◇8月17日午前8時、三室探鳥会の下見の途中、新宿橋下流でケリ2羽が飛んだ（楠見邦博、小菅靖）。

**さいたま市緑区大門** ◇9月2日、大量の水がたまった工事現場に、セイトカシギ8羽、クサシギ1羽（鈴木紀雄）。

**春日部市倉常** ◇8月2日、休耕田の水面にキアシシギ7羽、クサシギ10羽、イソシギ4羽、コチドリ60羽+。8月16日、オオタカ若鳥が蛙でカルガモを食べていた。休耕田にはケリ5羽、ムナグロ3羽、アオアシシギ4羽、キアシシギ5羽、イソシギ2羽、コチドリなど。8月17日、ムナグロ4羽、アオアシシギ4羽、キアシシギ3羽、イソシギ1羽、コチドリなど（鈴木紀雄）。

**加須市はなさき公園** ◇8月13日、アオアシシギ5羽とクサシギ3羽が採餌していて、

秋の渡りが始まっていた。ササゴイが飛んでアシ原に隠れた。その他ダイサギ7羽、アオサギ6羽、コサギ8羽、ゴイサギ幼鳥9羽、バン2羽、キジ♂1羽♀1羽、セッカ1羽（長嶋宏之）。

**滑川町武蔵丘陵森林公園** ◇8月16日、カイツブリ5羽(2羽の幼鳥が親に甘えていた)、ダイサギ39羽、アマサギ2羽、チュウサギ1羽、オシドリ♀1羽、カワウ多数（長嶋宏之）。

**騎西町北緯36.09東経139.60地点** ◇8月17日、田んぼでチュウサギ30羽十、ダイサギとコサギ多数（長嶋宏之）。

**白岡町高岩公園横の遊水池** ◇8月20日午前6時過ぎ、シラサギ類12羽、アオサギ2羽、ゴイサギ成鳥3羽、ホシゴイ(ゴイサギ若鳥)8羽、カルガモ10羽、カワウ1羽、キジバト5羽。他にヒヨドリ、ムクドリ多数。8月20日午後6時過ぎ、詳しくない人の情報によるとシラサギ類53羽、ホシゴイ5羽いたとの事。8月23日午後6時過ぎ、ダイサギ(くちばし黄色)5羽、チュウサギ?(くちばし、足先ともに黒)94羽、アマサギ1羽、アオサギ8羽、ゴイサギ成鳥4羽、ホシゴイ11羽、カルガモ20羽、キジバト6羽。「はじめまして。最近入会した親子です。まだ初心者ですが、情報を送ります。母栄絵は、小学生のとき、野田の鷺山によく連れて行かれたので、久々にたくさんのサギを見て、感動しました。よく泊まりに行く親戚のそばの池です。これからも楽しみです」(今井花、今井栄絵)。

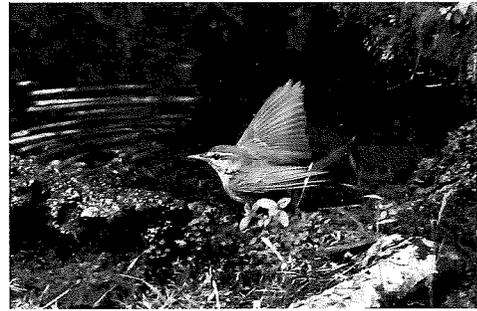
**羽生市水郷公園** ◇8月28日、コガモ3羽今期初認（中里裕一）。

**三郷市彦成3丁目** ◇8月10日、チョウゲンボウ♂♀各1。当地では、毎年8月に入ると、マンションの壁面にとまるミンミンゼミやアブラゼミを狙うチョウゲンボウが2、3羽現れる（山部直喜）。

#### 表紙の写真

**スズメ目ヒタキ科サメビタキ属エゾビタキ**  
平成18年10月21日、戸田市彩湖西岸の林で。

又部綱仁(さいたま市)



8月6日、富士山5合目奥庭、メボソムシクイ  
(藤掛宮子)

#### 今年聞いた夏鳥たち

新井哲夫(比企郡)

今年も待ちに待った夏鳥たちが自宅近くまでやってきて、それぞれ素敵な声を聞かせてくれました。

春、先ずミゾゴイが鳴き、続いてアオバズクが鳴き、ツツドリ、ホトトギス、アカショウビンと鳴いてくれました。これら夏鳥たちの声に耳をすますることが本当に楽しみです。ミゾゴイ、アオバズク、ツツドリ、ホトトギスは毎年鳴いてくれますが、アカショウビンは何年かぶりで鳴いてくれました。うれしい限りです。

これら夏鳥の声の初認日は次の通りです。

ミゾゴイ・・・4月2日

アオバズク・・・4月22日

ツツドリ・・・4月28日

ホトトギス・・・5月15日

アカショウビン・・・6月15日

今年はミゾゴイを見ました。

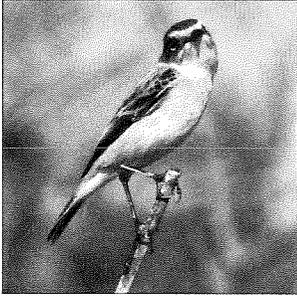
4月18日の夜明け前、大きな声で鳴いているので外へ出ましたら、15メートルぐらいの枝で1羽が鳴いていました。しばらくの間鳴いていましたが、やがて枝から離れ、飛んで去っていきました。その日は無風で気温は6度でした。

ミゾゴイは、全世界の推定個体数が1000羽以下とされる絶滅危惧種と聞きます。その中の1羽を見ることができ、本当に感激でした。

来年のまたの渡来が今から楽しみです。



## 行事案内



ノビタキ(久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 北本市・石戸宿定例探鳥会

期日：10月5日（日）

集合：午前9時、北本自然観察公園駐車場。

交通：JR高崎線北本駅西口アイメガネ前から北里メディカルセンター病院行きバス 8:31 発で「自然観察公園前」下車。

担当：浅見、岡安、大坂、内藤、島田、立岩、永野(安)、永野(京)、山野、長谷川

見どころ：秋、石戸宿ではオオタカ、ハイタカ、ツミ、サシバ、ノスリなど、多くのタカ類が観察されます。探鳥会で出現してくれるかどうかは参加者皆さんの心がけ次第？ 冬の使者第一陣コガモも、高尾の池に降りているでしょう。

### さいたま市・民家園周辺定例探鳥会

<差間コース>

期日：10月5日（日）

集合：午前9時、浦和くらしの博物館民家園 駐車場、念仏橋バス停前。

交通：JR浦和駅東口②番バス乗り場から、東川口駅北口行き 8:37 発で「念仏橋」下車。

後援：浦和くらしの博物館民家園

担当：手塚、伊藤(芳)、工藤、倉林、若林、新井(勇)、赤堀、須崎、藤田(敏)

見どころ：暑さから解放されて秋の気配がいよいよ濃くなってきた野辺は、行く鳥、来る鳥の交差点。ノビタキやキビタキを見送り、気の早い冬鳥たちにも期待しな

がら秋を満喫したいと思います。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：10月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:49 発に乗車。

担当：後藤、森本、中里、大澤、倉崎、高橋(ふ)、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鶴飼、岡田

見どころ：季節的には大変過ごしやすい時期となりました。野鳥たちの世界は、夏鳥と、早めに渡来した冬鳥が入り交じる状況でしょう。キビタキやオオルリなどが南へ帰る途中で見られる事も……。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：10月18日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局 108 号室

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：10月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小菅、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、舟木

見どころ：芝川の堤防工事が一部を残して終

了し、水門が所々にできました。石段で土手を上がると、川の流れがよく見えます。見沼たんぼは常に変化し、新しい環境が生まれます。そんな変化を楽しみに、三室にお出かけください。

### 北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：10月25日(土)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前または午前8時30分、中央エントランス駐車場

交通：東武日光線新越谷 7:20→春日部 7:35→栗橋 7:54→柳生 8:05 着。または JR 宇都宮線大宮 7:07→栗橋 7:40 着で、東武日光線乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡駐車場。

担当：玉井、田邊、四分一、小林(正)、植平  
見どころ：カモたちは北の国から帰ってきて谷中湖で長旅の疲れをいやしています。この時期しか見られないエクリプスや換羽中のカモを楽しみましょう。到着したばかりのジョウビタキ、アオジなどの冬の小鳥たち、猛禽類も姿を見せるはず。

### 長野県・戸隠飯綱高原探鳥会 (要予約)

期日：10月25日(土)～26日(日)

まだ間に合うかも、前月号をご覧ください。

### 川越市・西川越探鳥会

期日：10月26日(日)

集合：午前9時10分、JR川越線西川越駅前。

交通：JR埼京線大宮 8:36→川越にて 8:57 発

八王子行きに乗り継ぎ乗車、西川越下車。

担当：佐久間、長谷部、山本(真)、中村(祐)、山口、山田(義)

見どころ：さわやかな秋になって、そろそろ冬鳥たちの季節がやってきました。どんな鳥たちが渡ってきているか楽しみです。タカ類やカモ、サギ、カワセミなども、皆さんのお出かけを待っています。

### 行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：10月26日(日)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。



ツツドリ(鶉飼喜雄)

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス行田車庫(佐間経由)行き 8:50 発で、「産業道路」下車、徒歩約15分。

担当：内藤、岡安、立岩、栗原、高橋(ふ)、長谷川、茂木

見どころ：色づいた柿に鳥たちが群れています。古墳の頂きに上がれば秩父の山々もハッキリ。あとはお目当てのジョウビタキの登場を待つだけ。

### 宮城県・伊豆沼探鳥会 (要予約)

期日：11月22日(土)～23日(日)

集合：22日午前9時30分、JR大宮駅改札口の中、新幹線北のりかえ口前。

交通：往復とも東北新幹線を利用。

費用：40,000円(1泊3食宿泊料、往復乗車・指定料金、現地バス代、保険料など)。過不足の場合は当日精算。集合地までの交通費は各自負担。

定員：25名(先着順、当支部会員優先、最少催行人員15名)

申込み：普通はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号、喫煙の有無を明記して、榎本秀和まで。

担当：榎本(秀)、長野、青木

見どころ：好評につき、2月に引き続いての開催です。万羽のマガンやヒシクイはもちろん、珍しいガンとの出会いに期待します。交通・宿泊手配に加え、現地の野鳥情報も鳥見専門の旅行会社に依頼します。最新の情報による安心確実な支部の探鳥会です。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意は出来ません。



## 行事報告

3月15日(日) 神奈川県 城ヶ島

参加: 41名 天気: 晴

アビ オオミズナギドリ ウミウ ヒメウ コサギ クロサギ トビ ユリカモメ セグロカモメ オオセグロカモメ ウミネコ ミツユビカモメ カンムリウミスズメ キジバト コゲラ ハクセキレイ ビンズイ イソヒヨドリ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジスズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (28種) (番外: ドバト) 午前中は、ポイントの長津呂崎で定点観察。「城ヶ島海鳥観察グループ」の田中和徳さんたちに、探し方などを教えていただく。「ここに入っていますよ!」とスコープを見せてもらっても、最初のうちは見えるのは波ばかり。目が慣れてくると、カンムリウミスズメの姿が分かってくる。近くに着水したカンムリウミスズメが短い翼で羽ばたくと、「きゃー、かわいい!」と声上がる。他にアビやミツユビカモメも登場。午後は島を半周して、ウミウ、ヒメウ、イソヒヨドリなど海辺の定番の鳥を観察した。

(小林みどり)

3月16日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 41名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ ミサゴ トビ オオタカ ノスリ コジュケイ キジ クイナ イカルチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ イカル シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) (番外: ガビチョウ、ドバト) 薄曇りの暖かい探鳥日となった。集合場所の駅前の上空をイカル4羽が飛翔、またエナガも姿を現す。探鳥開始前から雰囲気は良い。探鳥が始まって対岸の草陰にクイナを発見。全身は見えないが左右に動いて盛んに餌を探し回

っている。ミサゴも飛んでくれた。この探鳥会でミサゴは1997年、クイナは1998年以來の久しぶりのお出ましだ。また1994年の初回からカワセミは37回皆勤を保ってくれた。この探鳥会は鳥合わせの時、必ず猛禽が飛んでくれる。今回もオオタカが現れてくれた。出現鳥39種、ミサゴ、クイナも出てくれてまずまずの探鳥会であった。

(山口芳邦)

3月20日(木、休) 長瀨町 宝登山

雨のため中止。

3月23日(日) 行田市 さきたま古墳公園

参加: 31名 天気: 晴

カワウ アオサギ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ バン キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ビンズイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (30種) 駆け足で暖かさがやって来た。気分的には春満開の感じだったが、さきたまの桜はまだつぼみは堅い。奥の山古墳は発掘中で水もなく、全体に鳥影もうすくヒヨドリの声だけが響く感じだったが、そんなときにシロハラが落ち葉をあさり、松の根元にビンズイの群れが出てくれた。地面に落ちた松の実を懸命にあさっているのだろうか。全員がじっくり見ることができた。さらに浅間神社の社叢では、オオタカが鳴き声を上げ木々の頂に近いところを回遊してくれ枝にとまった。こんな近くで見るのは初めてとの声もあがり盛り上がった。本当に眼光が鋭かったと会員の話。双子山古墳には先週カモの仲間が100羽近くいたのに、水面に残っているのはカルガモ3羽とコガモ1羽の寂しさだった。この暖かさで旅立ちを急いだのだろうか。最後に蓮池でバンを見て、無事終了。オオタカ、ビンズイに救われた探鳥会だった。

(内藤義雄)

3月23日(日) 狭山市 入間川

参加: 31名 天気: 晴

カイツブリ カワウ コサギ マガモ カルガモ コガモ トビ コチドリ イカルチドリ イソギ キジバト ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セ

グロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ メジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 今回は、探鳥会初記録のホオアカで盛り上がった。地元クリーダーが、いつも見ている場所で発見。高原ではめずらしくないが、平地で見る機会は少なく、みな喜んでた。川を離れ、カタクリの自生地を見て公園へ。幸い桜は開花前のため、おちついて鳥見ができた。  
(長谷部謙二)

**3月23日(日) 松伏町 松伏記念公園**  
参加：46名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ チョウゲンボウ バン オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ドバト) 共催の地元公民館からの参加者8名を迎えて、うらうらと陽炎が立つ春の日、のんびり鳥を探して公園と農耕地を歩いた。コガモやヒドリガモ、ジョウビタキ、ツグミ、アオジそれにオオジュリンの冬鳥達が残っていて、他方、参考記録になったが、上空に渡ってきたばかりのツバメを見た人もいた。シラコバトは出なかったが、チョウゲンボウやカワセミなどの人気スター達の出現に、十分に楽しんでいただけたものと思う。  
(田邊八州雄)

**3月29日(土) 栃木県日光市 東照宮裏山**  
参加：56名 天候：晴

カワウ トビ オオタカ ノスリ クマタカ キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミソサザイ カヤクグリ ジョウビタキ ウグイス キクイタダキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ ホオジロ カシラダカ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ カケス オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (37種) 大谷川で来たばかりのイワツバメやカワガラスをゲット。昨年是不調だった開山堂より上の道

では今年は次々にカラ類等が現れてくれて楽しめた。昼食時にはクマタカ、オオタカ、ノスリ、トビが何度も飛び、その後もキバシリやカヤクグリ等で盛り上がった。林間のコースなのでそれぞれを全員で見ることは難しいが、37種も出て参加者も満足できたと思う。  
(玉井正晴)

**3月30日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地**  
参加：49名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ トビ ノスリ チュウヒ ハヤブサ チョウゲンボウ キジ コチドリ セグロカモメ キジバト ヒバリ ツバメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス セッカ シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ マヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (45種) 谷田川にかかる下宮橋上流でキジが飛び出ししばらく姿を見せていた。谷中湖は干し上げが終了して水が入り始め、カモ類が少数戻っていた。中ノ島から浮島を見ると、チュウヒやノスリ、ここでは珍しくチョウゲンボウも。頭の黒いオオジュリン、そしてハヤブサ、左に折れると色鮮やかなベニマシコのオス。しばし全員で堪能。ウグイスやヒバリが囀り、ツバメ飛ぶ春だった。  
(内田孝男)

**4月6日(日) 北本市 石戸宿**  
参加：57名 天気：晴

アオサギ マガモ カルガモ コガモ コジュケイ キジ クイナ バン キジバト コゲラ ツバメ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) (番外：ガビチョウ) 恒例のお花見探鳥会。好天に恵まれ、春を満喫。エドヒガン桜は満開を大分過ぎ名残花。ソメイヨシノは散り初めでそよ風にも花吹雪。桜堤の宴会騒ぎを避けて、蒲桜見物へ。ちょうど満開。途中、児童公園の斜面にはカタクリの群落を遠望。肝心の鳥は、例年と比べてややさびしかったが、参加者皆満足してくれたと思う。  
(浅見 徹)



●「支部」の名称変更案

7 月号本欄でご紹介した公益法人制度改革による「支部」の名称変更の件について、8 月 19 日付で新制度検討委員会(委員長：佐藤仁志)から柳生博会長に、臨時答申書が提出されました。骨子は、

- (1) 新制度対応に際しては、現在の「日本野鳥の会〇〇支部」の名称から、「支部」の二文字を削除し、名称を「日本野鳥の会〇〇」に統一する。
- (2) 各支部における支部名称変更に必要な手続き等は、財団の新制度移行申請に間に合うよう、遅くとも 2010 年 3 月までに終えていただくよう各支部に要請する。

というものです。この案によれば、当支部の名称は、「日本野鳥の会埼玉県」ということになります。はたしてこれが最良の案であるかどうか、当支部役員会では慎重に検討し、10 月 5 日の期限までに、支部としての意見を提出する予定です。

前回も書きましたが、名称が変更になっても、私たちが埼玉県における日本野鳥の会の活動を担当し続けることには、何も変わりはありません。

●『野鳥』誌 9 月号は休刊でした

いつも『野鳥』と『しらこぼと』と一緒に受け取っていた会員の皆様には、8 月号に同封したお知らせなどでお伝えしてありますように、9 月号は『しらこぼと』だけが届きました。経費削減のため、『野鳥』9 月号が休刊となったためです。

変則的な作業のための混乱で、東京支部と埼玉県支部に重複入会している会員に『しらこぼと』を送るラベルが送られて来ませんで

した。8 月 16 日(土)袋づめの会でラベル数が少ないことに気づき、18 日(月)本部会員室からメールでデータを送らせ、支部のパソコンでラベルを打ち出して事務局が袋詰め作業、20 日(水)の発送に間に合わせました。そのため、東京支部と重複入会している会員の方には、いつもと違う印字のラベルで届きました。

●会員数は

9 月 1 日現在 2, 216 人です。

活動と予定

8 月 9 日(土) 9 月号校正(海老原美夫・大坂幸男・藤掛保司)。

8 月 17 日(日) 役員会(司会：長野誠治、各部の報告・普及部費用の普及部としての裁量範囲・その他)。

8 月 20 日(水) 「支部報だけの会員」に向けて 9 月号を発送 (倉林宗太郎)。

8 月 21 日(木)～25 日(月) 事務局夏休み。

8 月 27 日(水) 見沼たんぼ・さいたま市&市民ネットワーク平成 20 年度第 2 回運営会議に出席 (楠見邦博)。

●事務局の予定

10 月 4 日(土) 編集部・普及部・研究部会。

10 月 11 日(土) 11 月号校正(午後 4 時から)。

10 月 18 日(土) 袋づめの会(午後 3 時から)。

10 月 19 日(日) 役員会(午後 4 時から)。

編集後記

今夏、さいたま市北区の職場で初めてクマゼミの声を聞く。ここまで来たか。(森本)

11 月は 3 連休が 3 回あることに気づいた。結局どこにも行けないだろうが、計画だけでも立ててみよう。(山部)

久しぶりにオナガの声を自宅で聞くことができた。一時期は雛がカラスにやられ全滅状態だった。なんとなくうれしい。(山口)

しらこぼと 2008 年 10 月号(第 294 号) 定価 200 円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://35.tok2.com/wbsjsaitama/>

編集部への原稿 [yamabezuku@hotmail.com](mailto:yamabezuku@hotmail.com) 野鳥情報 [toridayori@hotmail.com](mailto:toridayori@hotmail.com)

住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635

本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。印刷 関東図書株式会社